

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年11月の牛肉生産量はと畜頭数の減少などからかなりの程度減少

25年11月の牛肉生産量は前年同月比8.8%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年11月のフィードロット導入頭数は159万5000頭（前年同月比11.2%減）、出荷頭数は152万1000頭（同11.8%減）とそれぞれかなり大きく減少した。この結果、同年12月1日時点のフィードロット飼養頭数は1172万7000頭（同2.1%減）とわずかに減少した。

USDA/NASSによると、25年11月の牛と畜頭数は227万4000頭（同11.4%減）とかなり大きく減少した（図1）。このため、同月の1頭当たり枝肉重量は405.5キログラム（同3.0%増）とやや増加したものの、同月

の牛肉生産量は91万7000トン（同8.8%減）とかなりの程度減少した（図2）。

図2 牛肉生産量の推移

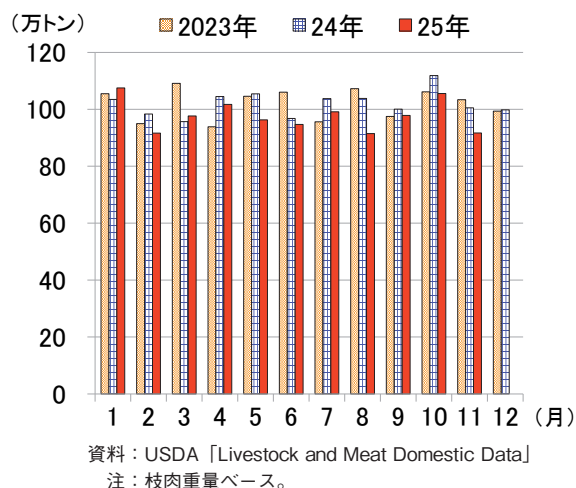
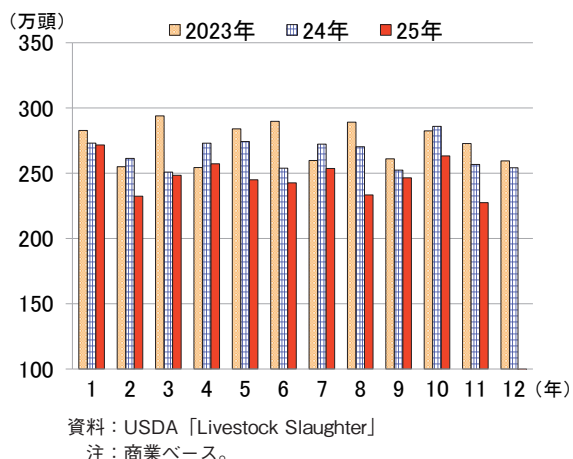


図1 牛と畜頭数の推移



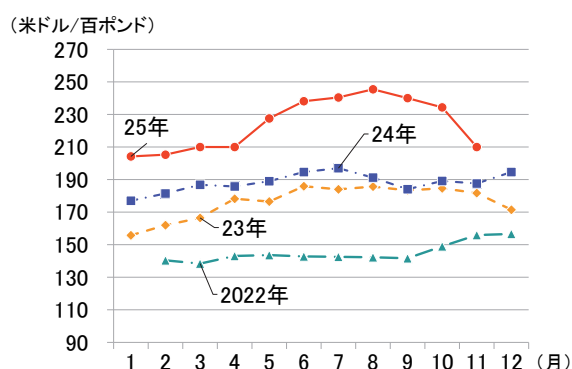
25年1～12月の牛肉生産量についてUSDAは、1177万1000トン（前年比3.8%減）とやや減少すると予測している。26年は枝肉重量の増加により、予測を1156万2000トンから1166万9000トン（同0.9%減）へと上方修正したものの、25年をさらに下回る見通しである。

25年11月の牛肉卸売価格は前月比で上昇も、肥育牛価格は下落

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年11月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）は、100ポンド当たり

373.3米ドル（1キログラム当たり1297円：1米ドル＝157.56円^{（注2）}、前年同月比19.9%高）と前年同月を大幅に上回った。一方で、肥育牛価格は同210.0米ドル（同729円、同11.9%高）と前年同月をかなり大きく上回ったが、前月比では10.4%減とかなりの程度下落した（図3）。肥育牛価格が依然として高値で推移する中でパッカーの利益率は赤字で推移していたとされており、同年11月には大手パッカーの食肉処理場の閉鎖などが発表されるなど、需要が減少したことによるものとみられる。

図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

25年8月の牛肉輸出量は前年同月比20.0%減

USDA/ERSによると、2025年8月の牛肉輸出量は8万6499トン（前年同月比20.0%減）と大幅に減少した（表）。特に中国向けは中国海関総署（GACC）による米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が行われず^{（注3）}、米国から中国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にあるため、898トン（同94.7%減）と大幅に減少した。カナダ向けやメキシコ向けについても、米国における堅調な牛肉需要と肥育牛供給の減少による価格高に加え、カナダドルやメキシコペソに対する米ドル高により減少している。また、メキシコではブラジルからの牛肉輸入が増加し、米国産牛肉から置き換わっている。

25年の輸出量についてUSDAは、牛肉生産量の減少や直近の輸出動向を踏まえ、117

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 8月	25年 8月			25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
			前年同月比 (増減率)	輸入割合		
日本	24,650	23,269	▲5.6%	26.9%	197,481	▲3.0%
韓国	21,096	20,890	▲1.0%	24.2%	200,616	8.2%
メキシコ	12,267	9,617	▲21.6%	11.1%	91,017	▲11.3%
カナダ	9,176	8,126	▲11.4%	9.4%	71,581	▲10.8%
台湾	8,227	6,872	▲16.5%	7.9%	51,572	▲14.3%
香港	3,106	4,704	51.4%	5.4%	29,797	24.0%
フィリピン	1,601	1,949	21.7%	2.3%	15,118	7.2%
中国	16,822	898	▲94.7%	1.0%	67,133	▲52.8%
その他	11,152	10,174	▲8.8%	11.8%	91,161	▲8.1%
合計	108,098	86,499	▲20.0%	100.0%	815,474	▲10.6%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

万3000トン（前年比14.0%減）とかなり大きく減少すると見込んでいる。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

（調査情報部 国際調査グループ）

カナダ

25年7月の総飼養頭数はわずかに増加、牛群再構築の動き

25年7月の総飼養頭数は前年比0.8%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2025年7月1日時点の牛の総飼養頭数は1191万頭（前年比0.8%増）と、1980年代以来の低水準で推移しつつも、わずかに増加した（表1、図1）。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が前年比0.4%増、未經産牛（肉用牛）が同2.0%増、子牛についても同3.0%増と、干ばつが改善傾向にある中で、牛群再構築の動きが見られている。ただし、西部のマニトバ州やサスカチュワン州では干ばつが続いており、再構築には地域差があるとされる。

26年の牛肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、飼養頭数の増加が見込まれる中で、同0.8%増の128万トンと予測している。

図1 総飼養頭数の推移

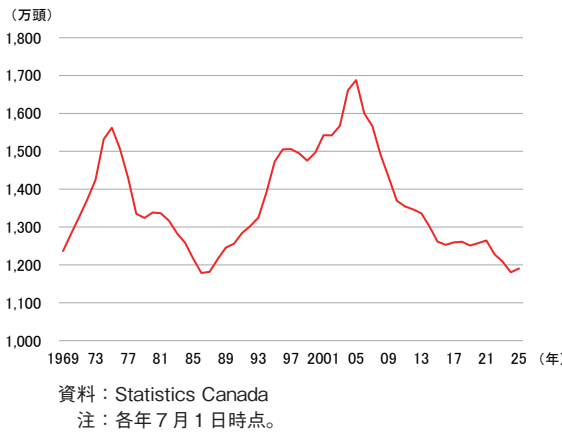


表1 牛飼養頭数の推移

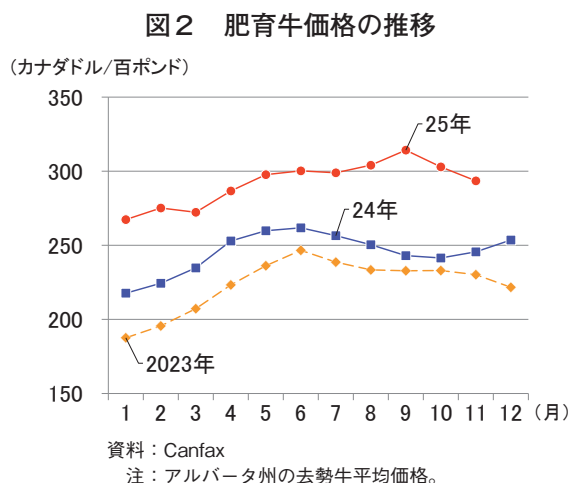
（単位：万頭）

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	1,209	1,181	1,191	0.8%
繁殖雌牛	452	442	444	0.4%
肉用牛	356	345	347	0.4%
乳用牛	97	97	97	0.4%
未經産牛	186	185	185	0.0%
肉用後継牛	58	59	60	2.0%
乳用後継牛	41	41	41	0.5%
その他	87	85	84	▲1.5%
去勢牛	162	163	160	▲1.8%
種雄牛	21	20	21	0.5%
子牛	386	371	382	3.0%

資料：Statistics Canada
注：各年7月1日時点。

25年11月の肥育牛価格、前年同月比19.5%高

CanFax^(注1)によると、2025年11月の肥育牛価格は、100ポンド当たり293.50カナダドル（1キログラム当たり750円：1カナダドル＝115.90円^(注2)、前年同月比19.5%高）と大幅に上昇した（図2）。北米では旺盛な牛肉需要^(注3)と肥育牛供給の縮小が続いており、25年の肥育牛価格は前年を上回る水準で推移している。



(注1) カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市況分析部門。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。
(注3) ただし、ひき肉など安価な製品へのシフトが見られている。

25年9月の牛肉輸出量、前年同月比3.4%増

カナダ農業・農産食料省（AAFC）によると、2025年9月の牛肉輸出量は3万7022トン（前年同月比3.4%増）とやや増加し、1～9月の累計では30万5283トン（前年同期比1.9%減）とわずかに減少した（表2）。このうち8割強を占める米国向けについては、米国がブラジル産牛肉に50%の追加関税を課した^(注4)ことで同国からの加工用牛肉の輸入が減少し、代替として9月に米国向けのカナダ産牛肉の輸出量が増加（前年同月比4.6%増）したとみられている。なお、中国向けは21年末におけるカナダ国内での非定型BSEの報告以降、輸出停止が続いている。

(注4) 詳細は海外情報「牛肉を含む特定の農産物などに対する相互関税およびブラジル向け追加関税を撤廃（米国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004247.html)をご参照ください。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
米国	30,639	32,063	4.6%	86.6%	249,760	▲1.8%
日本	1,613	1,497	▲7.2%	4.0%	17,194	▲8.0%
メキシコ	1,092	1,370	25.5%	3.7%	16,128	9.8%
韓国	1,059	706	▲33.3%	1.9%	9,529	▲6.0%
ベトナム	620	695	12.1%	1.9%	5,963	4.0%
コロンビア	190	150	▲21.1%	0.4%	556	▲30.4%
その他	603	541	▲10.3%	1.5%	6,153	▲6.7%
合計	35,816	37,022	3.4%	100.0%	305,283	▲1.9%

資料：Statistics Canada
注：製品重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

豪州

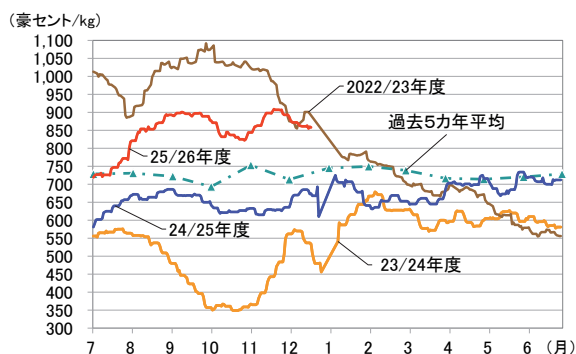
2025年の牛肉輸出量、1カ月を残し年間輸出量の最高値を更新

25年12月の若齢牛価格、緩やかに下落傾向で推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2025年12月18日時点で1キログラム当たり858豪セント（917円：1豪ドル＝106.82円^{（注1）}）と、12月に入り緩やかな下落傾向が続いている（図1）。

現地報道によると、食肉加工業者は年末に向けて操業を縮小し、フィードロットも12月から約1カ月間、新規受け入れを停止しているため、牛の供給に対して買い手の需要が一時的に落ち込んでいるとされている。今後の見通しについては、天候の影響が不透明ではあるものの、1月以降も価格下落が継続すると予測する現地のエージェント（家畜商）やアナリストはほとんどおらず、当面は現在の価格水準を維持する可能性が高いとみている。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

注1：年度は7月～翌6月。

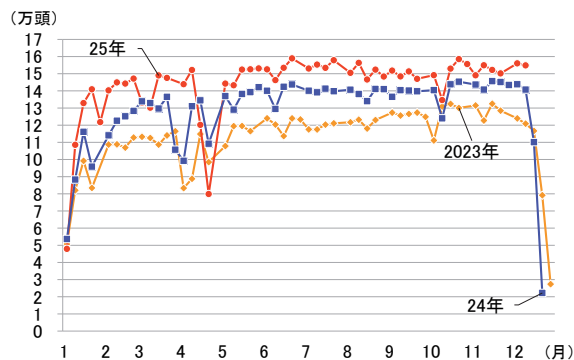
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも関係にある。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

成牛と畜頭数はシーズン終盤も高水準を維持、休暇前の駆け込み需要に対応

2025年12月の週間成牛と畜頭数は、引き続き堅調を維持しており、12月第2週は15万4861頭（前年同期比10.0%増）を記録した（図2）。牛肉輸出が堅調なことに加え、クリスマス休暇前の駆け込み需要により、と畜頭数は例年より高水準で推移している。現地報道によると、大半の食肉加工業者が26年1月分と畜の予約受付を開始しており、年始も順調とされている。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

年間輸出量が過去最高を更新、150万トンの大台突破を見据える

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年11月の牛肉輸出量は13万1705トン（前年同月比10.8%増）とかなりの程度増加し、25年の累計（1～11月）では139

万8227トン（前年同期比15.0%増）となり、
1カ月を残し、通年の記録である24年の

輸出量（134万トン）を超え、過去最高値
を更新した（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 （増減率）	25年	前年同期比 （増減率）
				（1～11月）	
米国	35,026	41,714	19.1%	412,080	16.9%
日本	17,515	24,877	42.0%	234,745	2.3%
中国	16,337	19,554	19.7%	243,059	43.5%
韓国	19,001	17,399	▲8.4%	200,211	10.0%
東南アジア	15,890	10,393	▲34.6%	126,816	▲9.5%
中東	3,016	3,321	10.1%	37,033	9.7%
E U	1,222	1,978	61.9%	22,728	85.5%
その他	10,871	12,469	14.7%	121,555	25.9%
輸出量合計	118,878	131,705	10.8%	1,398,227	15.0%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

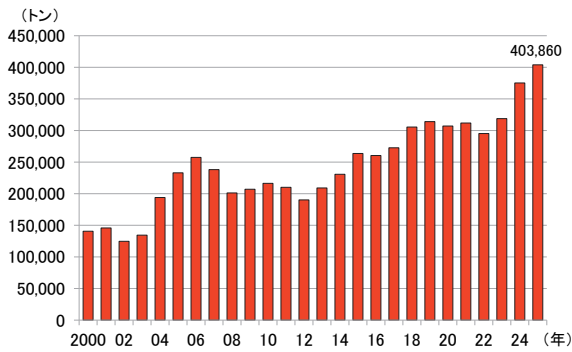
MLAはこの記録達成に関して、米国の相互関税など逆風の中で達成できたことは意義深いとし、米国向け加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉用）がこの伸びをけん引したに加え、穀物肥育牛肉輸出量も過去最高を記録したことは、豪州産牛肉のプレミアム品質が世界市場で確固たる地位を確立したことを示していると説明した（図3）。

11月の輸出量を輸出先別に見ると、韓国

向けは1万7399トン（前年同月比8.4%減）と減少したものの、主要輸出先である米国向けは4万1714トン（同19.1%増）、日本向けは2万4877トン（同42.0%増）、中国向けは1万9554トン（同19.7%増）と、引き続き堅調に推移している。

現地報道によると、米国のアナリストの予測シナリオでは、豪州を含む各国は米国の関税撤廃の恩恵を受ける一方、競争力維持のため、その恩恵分を価格転嫁する必要があるとし、その結果、米国産牛肉との価格差が拡大することで、26年の米国の牛肉輸入量はさらに増加すると分析されている。その中で、豪州の米国向け牛肉輸出量は、25年と比較して約5%（枝肉重量ベースで3万3000トン）の増加が予測されており、引き続き米国向けが豪州の牛肉輸出をけん引する可能性がある。

図3 穀物肥育牛肉の輸出量の推移



資料：MLA「Australian Meat Export」

注：暦年のデータ。

（調査情報部 国際調査グループ）

ブラジル

25年 1 ～ 11月の牛肉輸出は好調を維持

25年 1 ～ 9月の牛肉生産量は前年同期比4.0%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年 1 ～ 9月の牛と畜頭数は3175万7000頭（前年同期比5.9%増）、牛肉生産量は813万6000トン（同4.0%増）といずれも前年同期をやや上回った（図1）。

米国農務省（USDA）によると、22年以降、

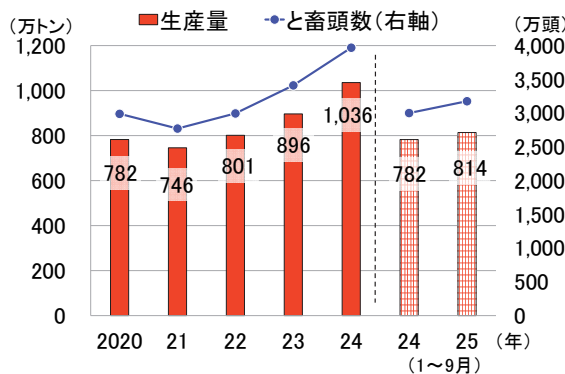
と畜頭数に占める雌牛の割合が高く推移していたことから、業界ではキャトルサイクルにより25年には雌牛の保留が進み、その割合は低くなるとみていたものの、24年終期の繁殖期に発生した干ばつが雌牛の妊娠率に悪影響を及ぼした結果、繁殖用として保留することを諦め、翌年（25年）の雌牛のと畜頭数が増加したとされている。これにより、当初予想されていた牛群再構築の開始時期は、25年の後半にずれ込むとみられている。

25年 1 ～ 11月の牛肉輸出量は前年同期比18.9%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年 1 ～ 11月の牛肉輸出量は278万5602トン（前年同期比18.9%増）と前年同期を大幅に上回った（表）。

輸出先別に見ると、輸出量全体の半分以上を占める中国向けは149万8969トン（同

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：IBGE

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：2025年は速報値。

表 牛肉輸出の推移

国名	2024年 1 ～ 11月			25年 1 ～ 11月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	1,208,723	5,417,994	4.48	1,498,969	8,027,043	5.36	24.0%	48.2%	19.5%
米国	169,587	842,650	4.97	205,101	1,061,626	5.18	20.9%	26.0%	4.2%
チリ	95,899	457,395	4.77	117,196	649,835	5.54	22.2%	42.1%	16.3%
メキシコ	43,015	200,135	4.65	112,728	617,751	5.48	162.1%	208.7%	17.8%
ロシア	62,072	239,725	3.86	94,073	443,873	4.72	51.6%	85.2%	22.2%
フィリピン	86,765	312,886	3.61	89,267	394,627	4.42	2.9%	26.1%	22.6%
エジプト	64,315	262,229	4.08	59,998	281,544	4.69	▲6.7%	7.4%	15.1%
サウジアラビア	50,734	232,820	4.59	53,730	277,764	5.17	5.9%	19.3%	12.7%
その他	562,126	2,689,476	4.78	554,541	3,146,158	5.67	▲1.3%	17.0%	18.6%
合計	2,343,235	10,655,310	4.55	2,785,602	14,900,221	5.35	18.9%	39.8%	17.6%

資料：SECEX

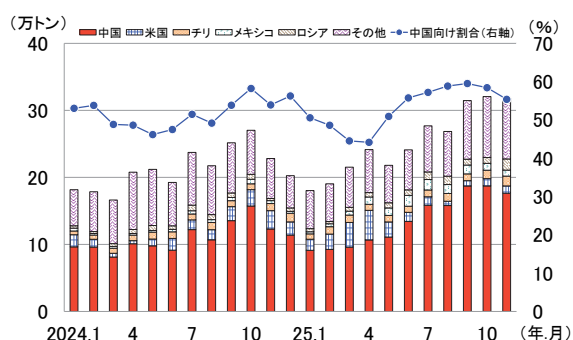
注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

24.0%増)となったほか、米国、チリ、メキシコおよびロシアを含めた上位5カ国が、いずれも前年同期を大幅に上回った。なお、累計では増加している米国向けであるが、単月で見ると6月以降は前年割れが続いている(図2)。そうした中、米国のトランプ大統領は25年11月14日、同年4月以降に導入した世界各国・地域に対する相互関税について、牛肉を含む特定の農産物などを対象外とする大統領令を発した^(注1)。さらに、11月20日には、ブラジルに対して8月6日以降課していた40%の追加関税についても、同様の品目を対象外とする大統領令を発した。これらの措置により、今後米国向けの輸出量に影響が生じるとみられる。

(注1) 詳細は海外情報「牛肉を含む特定の農産物などに対する相互関税およびブラジル向け追加関税を撤廃(米国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004247.html)をご参照ください。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合(右軸)



資料: SECEX

注1: 中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。

注2: 輸出量は製品重量ベース。

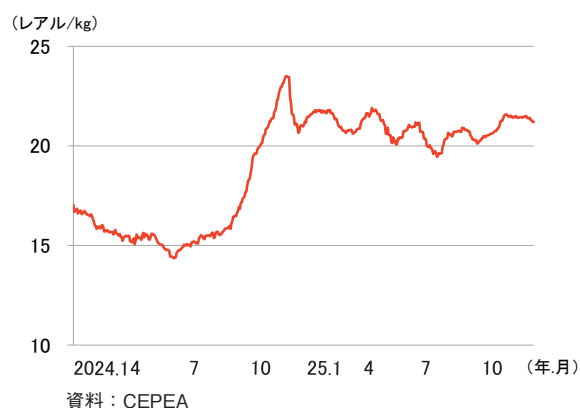
25年の肥育牛価格は安定して推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)によると、2025年12月19日時点の肥育牛価格は1キログラム当たり21.20リアル(607円: 1リアル=28.63円^(注2)、前年同日比0.8%高)となった(図3)。

25年の肥育牛価格は、前年と比較し、安定して推移している。これは、食肉加工業者と生産者の間で契約取引が増加し、スポット価格の変動が抑えられていることが要因とされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末のTTS相場および現地参考為替相場(Selling)。

図3 肥育牛価格の推移



資料: CEPEA

(調査情報部 原田 祥太)

豚 肉

米 国

25年11月の豚肉生産量はと畜頭数の減少などから前年同月比4.4%減

25年12月の豚総飼養頭数、前年比0.7%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年12月1日時点の豚総飼養頭数は、7554万5000頭（前年比0.7%増）と前年をわずかに上回った（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は595万2000

頭（同0.9%減）とわずかに減少し、肥育豚は6959万2000頭（同0.8%増）とわずかに増加した。また、同年9～11月期の産子数については、分娩母豚頭数が前年同期比0.3%増、1腹当たり産子数が同0.1%増となったことから、同0.4%増とわずかに増加した。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：万頭）

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（12月1日時点）	7,546.1	7,505.7	7,554.5	0.7%
繁殖豚	599.9	600.4	595.2	▲0.9%
肥育豚	6,946.3	6,907.1	6,959.2	0.8%
50ポンド（23kg）未満	2,175.1	2,164.4	2,186.6	1.0%
50～119ポンド （23～53kg）	1,915.4	1,916.6	1,900.2	▲0.9%
120～179ポンド （54～81kg）	1,490.8	1,478.4	1,487.2	0.6%
180ポンド（82kg）以上	1,382.9	1,347.7	1,385.2	2.8%
分娩母豚頭数（9～11月）	98.7	97.5	97.8	0.3%
産子数（9～11月）	1,151.2	1,162.5	1,166.6	0.4%
1腹当たり産子数（9～11月）（頭）	11.7	11.9	11.9	0.1%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

25年11月の豚肉生産量、前年同月比4.4%減

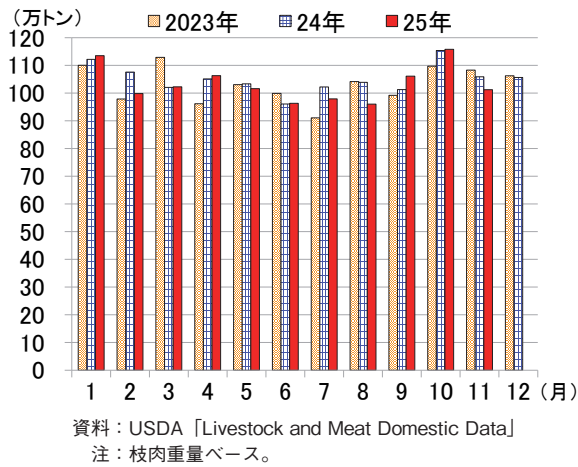
USDA/NASSによると、2025年11月の豚と畜頭数は、1025万9300頭（前年同月比5.4%減）と前年同月をやや下回った。平均枝肉重量は増加（同1.0%増）したものの、と畜頭数の減少や春の産子数が少なかったこと、主要な生産州における継続的な疾病の発生

などにより、同月の豚肉生産量は101万2000トン（同4.4%減）とやや減少した（図1）。

25年の豚肉生産量についてUSDAは、1245万7000トン（前年比1.2%減）とわずかに減少、26年は1246万3000トン（同0.0%）と前年並みを予測している。

また、同月の豚肉期末在庫は生産量の減少などを背景に16万8405トン（前年同月比5.1%減）とやや減少した（図2）。

図1 豚肉生産量の推移



25年8月の豚肉輸出量、前年同月比3.1%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年8月の豚肉輸出量は主要輸出先における需要が弱まっていることから、24万6203トン（前年同月比3.1%減）とやや減少した（表2）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、10万2011トン（同2.7%増）とわずかに、韓国向けは1万8596トン（同19.9%増）と大幅に、いずれも増加した。一方、日本向けは3万4194トン（同10.2%減）とかなりの程度減少した。中国向けは、米国産豚肉に追加関税が課されていることにより、同22.4%減と大幅に減少した。

25年の豚肉輸出量についてUSDAは、316万22000トン（前年比2.1%減）とわずかに減少、26年は318万4000トン（同0.2%減）と前年並みを予測している。

図2 豚肉の期末在庫の推移

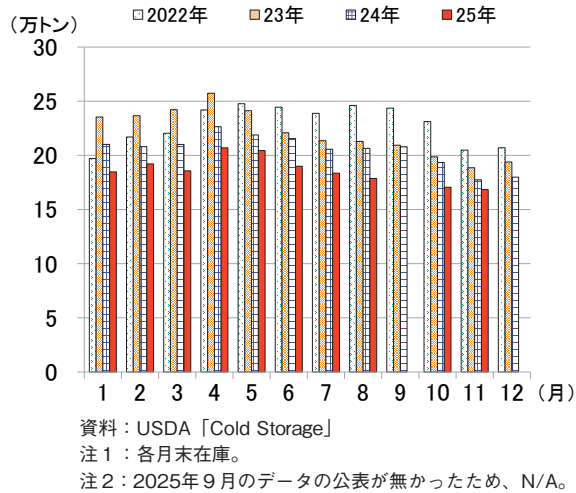


表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	99,318	102,011	2.7%	41.4%	799,838	0.8%
日本	38,066	34,194	▲10.2%	13.9%	299,008	▲10.3%
韓国	15,507	18,596	19.9%	7.6%	210,143	▲6.3%
カナダ	21,277	17,697	▲16.8%	7.2%	132,105	▲15.1%
中国	16,698	12,952	▲22.4%	5.3%	111,189	▲8.9%
コロンビア	18,246	12,243	▲32.9%	5.0%	111,748	7.4%
豪州	7,883	8,682	10.1%	3.5%	76,284	▲6.3%
ドミニカ共和国	7,552	8,590	13.7%	3.5%	76,557	▲4.5%
その他	29,508	31,238	5.9%	12.7%	259,185	10.1%
合計	254,056	246,203	▲3.1%	100.0%	2,076,057	▲2.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：枝肉重量ベース。
注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部 大西 未来）

25年11月の豚枝肉卸売価格、過去5カ年平均を下回る

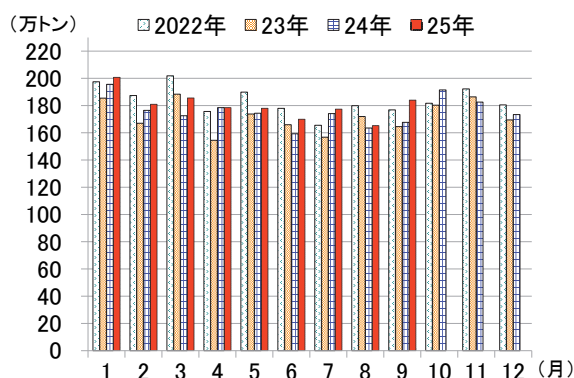
25年9月の豚肉生産量、前年同月比9.8%増

欧州委員会によると、2025年9月の豚肉生産量（EU27カ国）は184万トン（前年同月比9.8%増）とかなりの程度増加した（図1）。豚と畜頭数は1948万頭（同8.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った。また、1頭当たりの枝肉重量が94.43キログラム（同1.3%増）とわずかに増加したことも、生産量の増加につながった。

主要生産国の動向を見ると、スペインはと畜用豚の域内からの輸入を増やし、同年1～9月の豚肉生産量を前年同期比6.7%増加させた（表1）。ドイツ、ポーランドおよびデン

マークも同期間の生産量をそれぞれ同1.4%、5.6%および7.1%増加させた一方、フランスは同0.1%減と前年同期並みとなった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

国名	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	38.8	43.0	10.8%	388.8	6.7%
ドイツ	35.7	37.3	4.4%	322.9	1.4%
フランス	17.1	18.2	6.8%	156.1	▲0.1%
ポーランド	15.0	16.9	12.4%	147.0	5.6%
デンマーク	10.1	12.2	20.4%	105.4	7.1%
オランダ	9.6	11.6	21.2%	106.4	2.0%
イタリア	10.1	10.7	6.3%	97.0	3.9%
その他	31.2	34.0	9.0%	296.8	3.2%
合計	167.6	184.0	9.8%	1,620.4	3.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

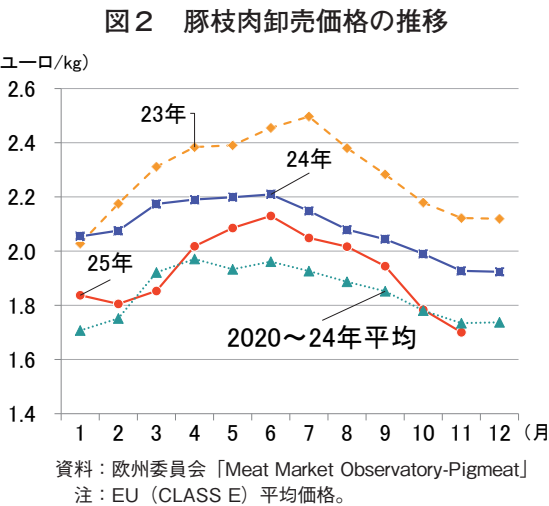
25年11月の豚枝肉卸売価格、需要減で低下

欧州委員会によると、2025年11月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム

当たり1.70ユーロ（316円：1ユーロ＝185.83円^{注1}、前年同月比11.8%安）となり、過去5カ年平均を下回った（図2）。これは、豚肉供給量が前年を上回って推移している影響が大きく、同価格は5カ月連続で前月を

下回っている。なお、英国農業園芸開発委員会（AHDB）によれば、価格下落は供給量の増加に加え需要の減退も影響しているとされる。また、スペインでアフリカ豚熱（ASF）が確認されたこと^{（注2）}が、今後EUにおける同価格の下落圧力になると見込まれている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。
（注2）詳しくは、海外情報「スペインでアフリカ豚熱発生を確認、野生イノシシが感染（スペイン）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004242.html）をご参照ください。



25年10月の豚肉輸出量、前年同月比0.6%減

欧州委員会によると、2025年10月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は18万932トン（前年同月比0.6%減）とわずかに減少した（表2）。中国によるアンチダンピング関税^{（注3）}などの影響で、同国向け輸出は同25.2%減と大幅に減少した。さらに、前述のスペインでのASFの確認により、日本やフィリピン向けなどに輸出される豚肉などに伴う輸入停止措置による今後の輸出量の減少が予想される。

（注3）海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税を暫定的に措置（EU、中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004204.html）をご参照ください。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 （増減率）	25年	前年同期比 （増減率）
				（1～10月）	
中国	43,568	32,609	▲25.2%	375,717	▲7.1%
英国	33,363	29,759	▲10.8%	276,861	▲3.1%
日本	24,057	18,690	▲22.3%	203,197	▲18.3%
韓国	12,528	19,236	53.5%	177,019	7.6%
フィリピン	13,534	11,112	▲17.9%	96,004	▲12.8%
豪州	8,454	6,271	▲25.8%	58,526	2.6%
その他	46,546	63,255	35.9%	501,593	24.3%
合計	182,050	180,932	▲0.6%	1,688,917	0.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部 渡辺 淳一）

中国

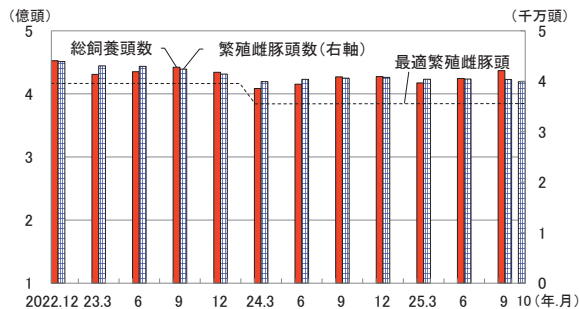
繁殖雌豚頭数はわずかに減少、豚肉輸入量もやや減少

25年10月末の繁殖雌豚頭数、前月比1.1%減

中国農業農村部によると、2025年10月末時点の繁殖雌豚頭数は3990万頭（前月比1.1%減）と前月をわずかに下回った（図1）。同年7月に同部が生産能力の調整措置として示した、生産性の低い繁殖雌豚の淘汰が着実に進められたことによるとみられるが（注1）、同部が最適な飼養水準（以下「最適水準」という）とする3900万頭を2.3%上回っている。

（注1）詳細は、海外情報「中国農業農村部、養豚と肉牛、酪農の動向について見解を公表（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004184.html）をご参照ください。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

注1：2025年10月データを除き、四半期ごとの公表値。

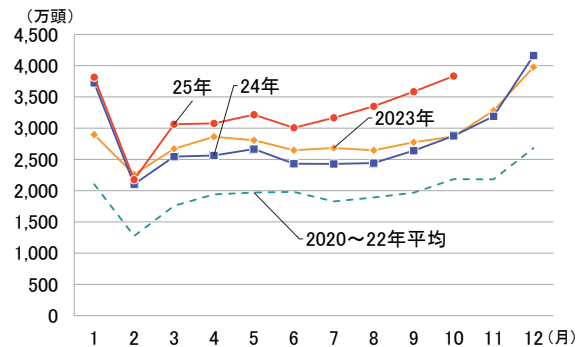
注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

25年10月の豚と畜頭数、前年同月比33.3%増

2025年10月の豚と畜頭数は、3834万頭（前年同月比33.3%増）と大幅に増加した（図2）。同年は継続して繁殖雌豚頭数が最適水準を上回ったことから、多くの肥育豚が生産

され、と畜頭数が増加したとみられる。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

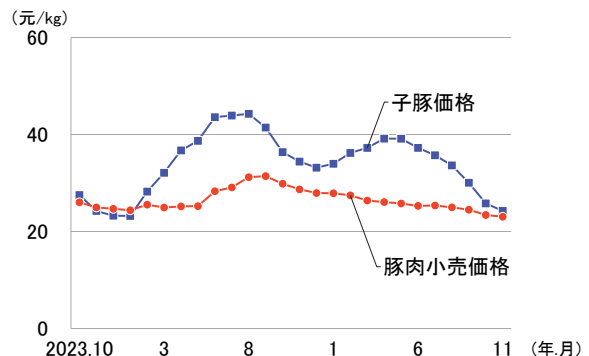
注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

25年11月の豚肉小売価格、前月比1.5%安

豚肉小売価格は、2024年10月以降、下落傾向で推移しており、25年11月は1キログラム当たり23.1元（523円：1元＝22.66円（注2）、前月比1.5%安、前年同月比19.7%安）となった（図3）。

豚肉生産にも影響する子豚価格も同年5月以降、下落傾向で推移しており、同年11月は同24.3元（551円、前月比6.0%安、前年

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

同月比29.6%安)となった。この要因について現地報道では、豚肉価格の下落が続いたことで肥育農家の収益性が悪化し、肥育もと豚の導入意欲が低下したためとしている。

今後の豚肉小売価格と子豚価格について中国農業農村部は、25年12月に公表した「農産物需給動向分析月報(2025年11月)」で、春節(旧正月。26年は2月15日)に向けて豚肉の塩蔵製品やハム、ソーセージなどの製造が最盛期を迎え、豚肉需要が増加することから、やや上昇すると予測している。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

25年 1 ～ 11月の豚肉輸入量、前年同期比5.5%減

2025年 1 ～ 11月の豚肉輸入量は90万8733トン(前年同期比5.5%減)とやや減少した(表)。26年の豚肉輸入量に関して現地報道は、1) 同年11月にスペインでアフリカ豚熱(ASF)が発生したこと(注3)、2) 中国商務部が同年12月17日から5年間、EU産の豚肉とその副産物に対してアンチダンピング関税を課すと発表したこと一などから、EU産が大きく減少するとしており、今後の動向が注目される。

(注3) 海外情報「スペインでアフリカ豚熱発生を確認、野生イノシシが感染(スペイン)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004242.html)をご参照ください。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移 (単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1 ～ 11月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	27.0	2.3%
ブラジル	40.2	23.7	14.6	▲33.7%
カナダ	13.2	7.6	6.2	▲9.3%
米国	12.3	7.0	5.3	▲12.8%
オランダ	12.0	7.5	6.8	▲0.7%
チリ	8.4	6.5	6.3	▲2.0%
その他	30.1	23.7	24.6	14.8%
合計	154.1	105.0	90.9	▲5.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 山崎 葵)

鶏 肉

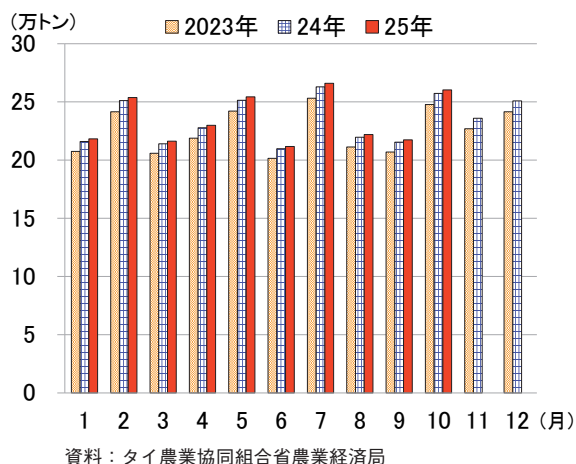
タ イ

鶏肉生産は堅調、鶏肉卸売価格は低迷

25年 1～10月の鶏肉生産量、前年同期比1.0%増加

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2025年 1～10月の鶏肉生産量は234万9464トン（前年同期比1.0%増）とわずかに増加した（図1）。26年の鶏肉生産量について、タイ金融大手のカシコン銀行傘下のシンクタンクであるカシコン・リサーチセンターは、25年12月に公表した報告書の中で、前年比0.9%増とわずかながらも増加が続くと予測している。

図1 鶏肉生産量の推移



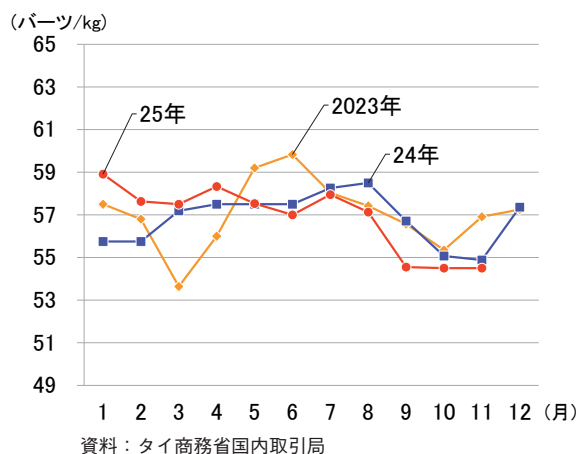
25年11月の鶏肉卸売価格、前年同月比0.7%安

鶏肉卸売価格は2025年 7月以降、下落傾向で推移しており、同年11月も1キログラム当たり54.50バーツ（275円：1バーツ＝5.05円^{（注）}、前年同月比0.7%安）とわずかに

に下落した（図2）。この要因について現地関係者は、同年7月にタイ・カンボジア国境地帯の紛争が再燃したことにより大手企業の加工施設で就労していたカンボジア人労働者が帰国したため、1）国内向け加工場の解体・分割作業が簡素化され、加工度の低い大手羽が供給過剰になったこと、2）副産物の処理が遅れ、加工業者の調達意欲が弱まったこと一を挙げている。一方、現地関係者は、年末需要やタイ南部での洪水発生などにより、鶏肉の供給過剰は緩和され、今後の価格は上昇すると予測している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



25年 1～10月の冷凍鶏肉の輸出量、前年同期比9.0%増

2025年 1～10月の冷凍鶏肉の輸出量は、41万8977トン（前年同期比9.0%増）と

かなりの程度増加した（表1）。このうち日本向けは、節約志向などを背景とした鶏肉需要により堅調に推移し、15万3249トン（同1.4%増）とわずかに増加した。一方、中国向けは、8万3888トン（同10.4%減）とかなりの程度減少した。この要因について

現地関係者は、1）25年7月に中国がタイの複数の加工場に対して中国向けの輸出基準を満たしていないことを理由に輸入停止措置を実施していること、2）中国国内の鶏肉供給量が十分であることを挙げている。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

国名	2023年	24年	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	16.6	17.9	15.3	1.4%
中国	11.5	11.3	8.4	▲10.4%
マレーシア	9.1	9.1	9.3	22.6%
韓国	3.2	2.2	2.9	56.9%
アラブ首長国連邦	0.02	0.98	2.1	180.9%
その他	6.8	4.6	3.9	2.9%
合計	47.2	46.1	41.9	9.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

25年1～10月の鶏肉調製品の輸出量、前年同期比3.4%増

2025年1～10月の鶏肉調製品の輸出量は、58万5134トン（前年同期比3.4%増）とやや増加した（表2）。このうち日本向けは、節約志向に加え、中食・総菜向け需要の拡大を背景に堅調に推移し、25万9579トン

（同2.7%増）とわずかに増加した。タイ・カンボジア間の紛争の影響について現地関係者は、鶏肉加工場ではミャンマー人労働者を新規に採用することなどで生産量を維持しているが、一部加工過程に遅延が生じているとしており、今後の輸出量の推移には注視が必要である。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

国名	2023年	24年	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	28.6	30.1	26.0	2.7%
英国	16.1	19.9	17.0	2.5%
オランダ	4.1	4.5	4.0	7.5%
韓国	2.9	2.9	2.2	▲11.0%
その他	8.0	10.3	9.4	9.7%
合計	59.6	67.7	58.5	3.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

（調査情報部 山崎 葵）

牛乳・乳製品

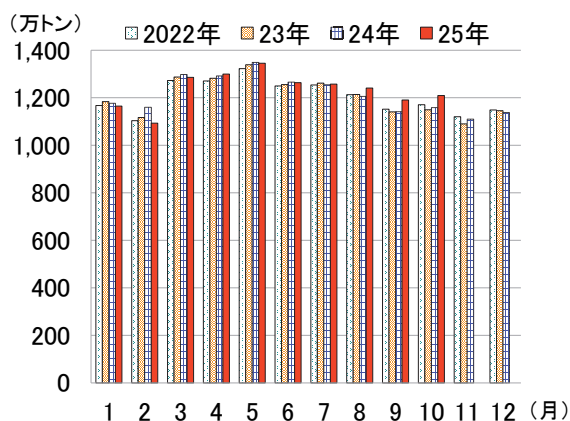
E U

生乳取引価格、19カ月ぶりに前年同月を下回る

25年10月の生乳出荷量は前年同月比4.4%増

欧州委員会によると、2025年10月の生乳出荷量（EU27カ国）は1209万トン（前年同月比4.4%増）となり、前年同月をやや上回った（図1、表1）。同年第3四半期（7～9月）の生乳出荷量は、前年同期を2.4%上回った。現地報道によれば、1）夏季の気温が前年より和らいだこと、2）良質な牧草生産量が増加したこと、3）生乳価格が堅調に推移し乳牛のと畜頭数が減少したこと、4）ブルータンクにより受胎率が低下し、出産時期が後ろ倒しになったことなどが影響している。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：万トン）

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	255	272	6.8%	2,704	▲0.3%
フランス	188	198	5.3%	2,011	0.8%
オランダ	110	118	7.8%	1,156	0.9%
ポーランド	108	113	4.4%	1,154	1.6%
イタリア	102	105	3.2%	1,071	▲2.1%
アイルランド	69	73	5.2%	832	5.7%
その他	326	330	0.9%	3,421	▲0.3%
合計	1,158	1,209	4.4%	12,349	0.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

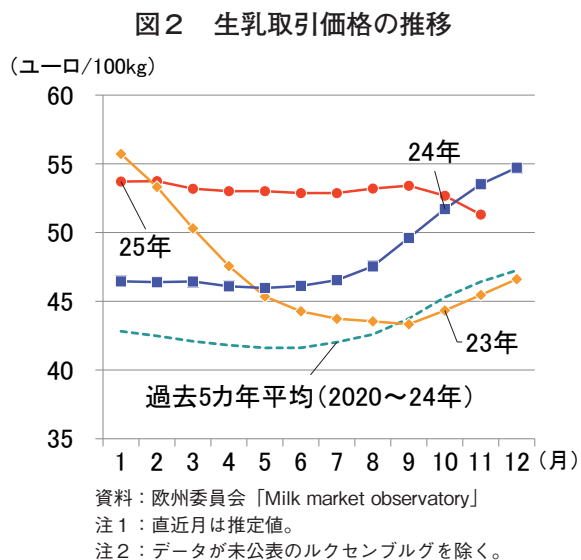
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年11月の生乳取引価格は前年同月比4.1%安

欧州委員会によると、2025年11月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり51.31ユーロ（1キログラム当たり95円：1ユーロ＝185.83円^{（注）}、前年同月比4.1%安）となり、19カ月ぶりに前年同月を下回った（図2）。バター、全粉乳および脱脂粉乳の価格下落に伴い、生乳取引価格も下落傾向で推移している。

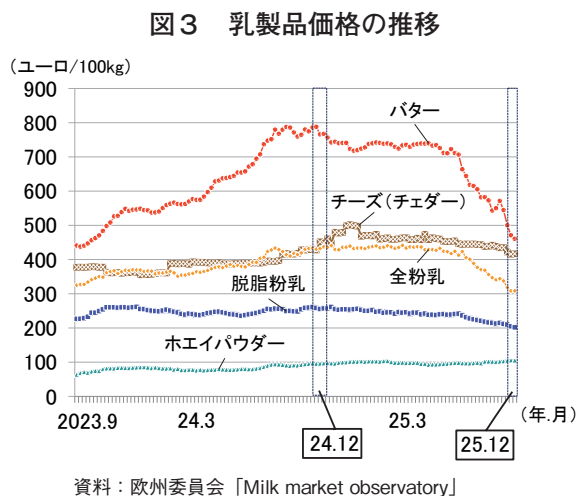
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。



バター価格は23年10月以来となる400ユーロ台

欧州委員会によると、2025年12月14日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり461ユーロ（1キログラム当たり857円、前年同期比39.9%安）となり、下落傾向が続いている（図3）。生乳やバターの生産量の増加に加え、米国産バターの価格下落に伴い、国際

市場におけるEU産バターの価格競争力が低下していることが影響している。このほか、全粉乳は同309ユーロ（同574円、同28.6%安）、脱脂粉乳は同202ユーロ（同375円、同21.0%安）と、いずれも前年同期を大幅に下回った。チーズも同417ユーロ（同775円、同7.8%安）とかなりの程度低下した。



25年1～9月期のバター輸出は前年同期比減も、米国向けは増加

欧州委員会によると、2025年1～9月期のEU域外向け乳製品輸出量は、チーズ（前年同期比0.6%増）と脱脂粉乳（同4.4%増）が増加した一方、バター（同0.5%減）と全粉乳（同22.7%減）は減少した（表2）。

バターと全粉乳は、価格競争力の低下や植物性油脂添加粉乳との競合により輸出量が減少した。ただし、バターの米国向け輸出量は、アイルランド産バターの増産により同20.7%増となった。一方、脱脂粉乳は、国内の生産拡大を図るアルジェリア向け輸出の大幅な減少を補うため、東南アジアや中東向けの輸出量を増加させている。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

(単位：千トン)

バター				脱脂粉乳			
輸出先	2024年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	2024年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
米国	44	53	20.7%	アルジェリア	140	91	▲34.7%
英国	35	36	1.4%	サウジアラビア	29	41	44.0%
中国	13	12	▲10.6%	エジプト	41	37	▲8.9%
韓国	9	10	7.2%	インドネシア	22	36	67.9%
サウジアラビア	8	7	▲9.7%	フィリピン	33	35	6.4%
アラブ首長国連邦	5	5	▲2.3%	ベトナム	22	30	38.0%
その他	68	60	▲12.8%	その他	281	321	14.0%
合計	183	182	▲0.5%	合計	568	592	4.4%

チーズ				全粉乳			
輸出先	2024年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	2024年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
英国	320	346	8.0%	オマーン	36	36	▲0.4%
米国	103	101	▲1.9%	英国	12	11	▲12.6%
日本	64	58	▲8.3%	クウェート	11	10	▲11.0%
スイス	56	57	1.0%	中国	11	8	▲32.0%
韓国	44	39	▲10.9%	ドミニカ共和国	6	6	1.8%
サウジアラビア	31	31	▲0.5%	セネガル	5	4	▲11.1%
その他	416	409	▲1.9%	その他	84	54	▲36.4%
合計	1,034	1,040	0.6%	合計	166	129	▲22.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

(調査情報部 渡辺 淳一)

豪 州

生乳生産量は低水準、輸出量はバターおよびバターオイルが大幅に減少

25年11月の生乳生産量、前年同月比2.2%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2025年12月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年11月の生乳生産量は84万9200キロリットル（87万4676トン相当、前年同月比2.2%減）とわずかに減少した（図1）。

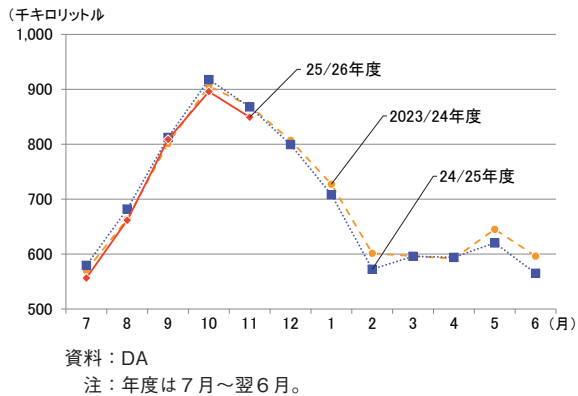
この結果、25/26年度（7月～翌6月）

の11月までの生乳生産量は、377万1772キロリットル（388万4926トン相当、前年同期比2.3%減）とわずかに減少した。

25/26年度の生乳生産量についてDAは、25年11月に公表した「Situation and Outlook Report」の中で、前年度比2%減の814万9000キロリットル（839万3470トン相当）と予測している。この理由についてDAは、1）主要酪農地帯であるビクトリア州などで続く乾燥状態により飼料や水など

の生産コストが上昇し、酪農家の生乳増産意欲が低下していること、2) 酪農家の廃業による乳用牛飼養頭数の減少といった長期的な問題が継続していることなどを挙げている。

図1 月別生乳生産量の推移



25年10月の主要乳製品の輸出量、バターおよびバターオイルが大幅に減少

DAが2025年12月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年10月

の主要乳製品4品目の輸出量は、バターおよびバターオイルが大幅に減少した(表、図2)。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けが大幅に減少したものの、インドネシアやタイなど東南アジア向けが増加したことを受け、前年同月比2.6%増とわずかに増加した。全粉乳は、アラブ首長国連邦やタイ、ベトナム向けが大幅に減少したものの、輸出量全体に占める割合が高い中国向けが大きく増加したことを受け、同3.0%増とやや増加した。バターおよびバターオイルは、マレーシア向けが堅調に推移したものの、中国のほか、インドネシアなど他の東南アジア向けが大幅に減少したことを受け、同74.6%減と大幅に減少した。また、チーズは、主要な輸出先のうち日本向けが大幅に減少したものの、中国向けが大幅に増加したことを受け、同12.7%増とかなり大きく増加した。

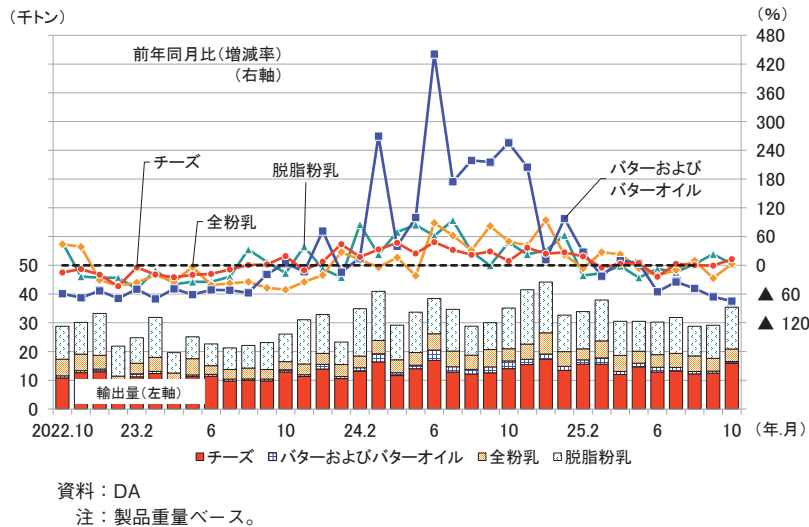
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7～10月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	14,163	14,530	2.6%	48,818	1.5%
全粉乳	4,244	4,370	3.0%	19,128	▲7.5%
バターおよびバターオイル	2,668	678	▲74.6%	3,415	▲58.2%
チーズ	14,056	15,848	12.7%	53,813	4.1%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



（調査情報部 平山 宗幸）

N Z

25/26年度の生産者支払乳価、2カ月連続で引き下げ

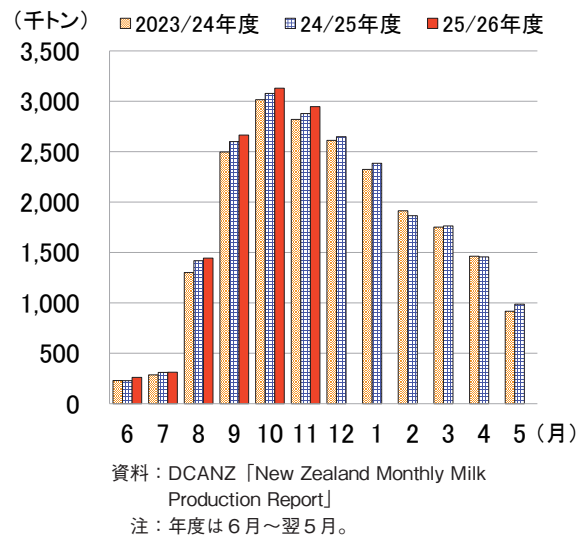
25年11月の生乳生産量、前年同月比2.4%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年11月の生乳生産量は294万7000トン（前年同月比2.4%増）とわずかに増加した（図1）。また、2025/26年度（6月～翌5月）の11月までの生乳生産量も、1075万9000トン（前年同期比2.3%増）と前年同期を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、比較的安価な飼料価格に支えられたことが増加につながったとみている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、特に北島の天候は牧草の生育に適した状況にあり、また、飼料供給量も増加していることから堅調に推移すると予想している。

図1 生乳生産量の推移



25年11月のバターおよびバターオイル、チーズの輸出量増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年11月の主要乳製品4品目の輸出量は、品目ごとに異なる動きを見せた（表、図2）。品目別に見ると、バターおよび

バターオイル、チーズは、いずれも中国向けの増加が寄与したことで、前年同月比で6.8%増、2.2%増とそれぞれ増加した。一方、脱脂粉乳、全粉乳は、いずれも中国、インドネシア向けの減少が影響し、同9.7%減、

13.3%減とそれぞれ減少した。年度累計(25年6～11月)では、全粉乳、バターおよびバターオイルがいずれも前年同期を上回った。

表 乳製品輸出力の推移

(単位：トン)

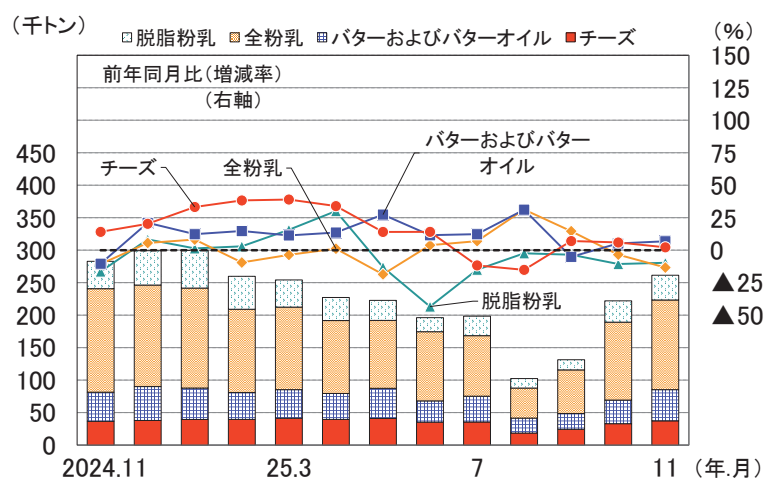
品目	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6～11月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	42,179	38,090	▲9.7%	131,111	▲9.8%
全粉乳	159,327	138,063	▲13.3%	464,541	0.0%
バターおよびバターオイル	44,872	47,942	6.8%	171,073	8.5%
チーズ	36,511	37,310	2.2%	148,787	▲2.5%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出力および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注：製品重量ベース。

25年12月16日のGDT平均価格、チーズは前回並み

2025年12月16日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、チーズを除く3品目が前回開催時(25年12月2日)を下回った(図3)。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3341米ドル(52万6408円、1米

ドル＝157.56円^(注2)、前回比4.7%安)とやや下落した。NZや米国など主要生産地域の堅調な乳製品生産により供給が増加し、需給が緩んだことで市場価格の下落傾向が強まったことが影響した。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は25年12月18日、25/26年度(6月～翌5月)の生産者支払乳価について、生乳

の固形分^(注3) 1 キログラム当たり平均0.5NZドル（46円：1NZドル＝ 92.85円^(注2)）引き下げ、同9.0NZドル（836円）とし、25/26年度の同乳価の予測範囲を同9.00～10.00NZドル（836～929円）から8.50～9.50NZドル（789～882円）に修正すると発表した。この理由について同社のハレル最高経営責任者は、今年度はNZおよび他国の乳製品供給量が堅調に推移しており、

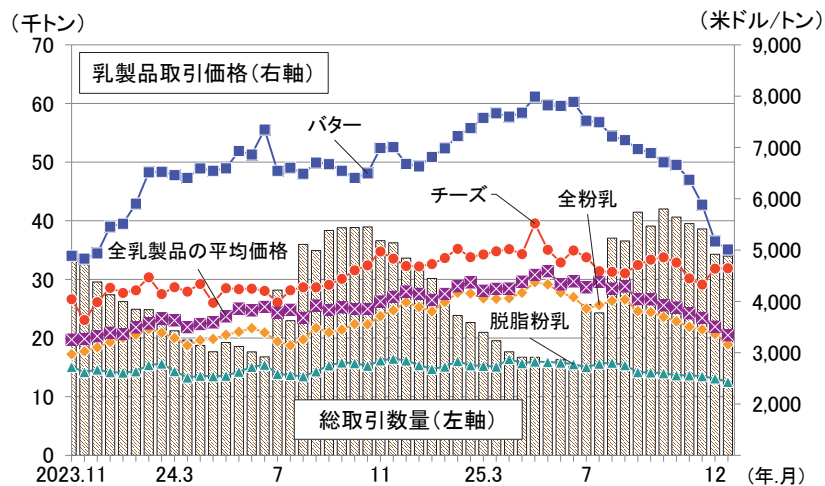
需給の緩和から最近のGDT平均価格の下落が続いていることや、11月に生産者支払乳価を引き下げて以降、NZドルがさらに上昇しているためと説明している。

（注1）グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

（注3）乳脂肪分および乳たんぱく質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT 「GDT Events Results」

（調査情報部 田中 美宇）

飼料穀物

世界

25/26年度は輸出量の上方修正から期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年12月9日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億8296万トン（前年度比4.3%増）と前月から327万トン下方修正された。主要生産国では、降雨による収穫遅れが見込まれるウクライナの下方修正がEUの上方修正を上回った。

輸入量は、世界全体で1億9037万トン（同2.9%増）と前月から75万トン下方修正された。主要生産国では、EUの下方修正が反映された。

消費量は、世界全体で12億9718万トン（同3.6%増）と前月から64万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。

輸出量は、世界全体で2億510万トン（同9.6%増）と前月から163万トン上方修正された。主要生産国では、米国の上方修正がウクライナの下方修正を上回った。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の上方修正が生産量および輸入量の下方修正を上回ったことで、2億7915万トン（同4.8%減）と前月から219万トン下方修正された。

（調査情報部 岡田 真希奈）

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年12月9日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	38.91	38.91	▲13.1%
	生産量	389.67	378.27	425.53	425.53	12.5%
	輸入量	0.72	0.55	0.64	0.64	16.4%
	消費量	322.87	312.10	332.25	332.25	6.5%
	輸出量	57.28	72.60	78.11	81.28	12.0%
	期末在庫	44.79	38.91	54.71	51.53	32.4%
ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	10.43	10.43	25.2%
	生産量	119.00	136.00	131.00	131.00	▲3.7%
	輸入量	1.72	1.60	1.60	1.60	0.0%
	消費量	84.00	94.50	96.50	96.50	2.1%
	輸出量	38.26	41.00	43.00	43.00	4.9%
	期末在庫	8.33	10.43	3.53	3.53	▲66.2%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	4.58	6.28	153.2%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	16.20	16.40	16.40	1.2%
	輸出量	36.26	30.00	37.00	37.00	23.3%
	期末在庫	2.48	6.28	4.19	5.89	▲6.2%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.54	1.04	0.84	55.6%
	生産量	32.50	26.80	32.00	29.00	8.2%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	5.48	6.50	7.00	6.00	▲7.7%
	輸出量	29.49	20.02	24.50	23.00	14.9%
	期末在庫	0.54	0.84	1.55	0.85	1.2%
EU	期首在庫	8.02	7.29	6.19	6.14	▲15.8%
	生産量	61.95	59.02	55.75	56.75	▲3.8%
	輸入量	19.81	18.59	21.00	20.00	7.6%
	消費量	78.10	76.00	75.30	75.30	▲0.9%
	輸出量	4.39	2.77	1.80	1.80	▲35.0%
	期末在庫	7.29	6.14	5.84	5.79	▲5.7%
中国	期首在庫	206.02	211.19	191.93	191.93	▲9.1%
	生産量	288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
	輸入量	23.33	1.82	8.00	8.00	339.6%
	消費量	307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	211.19	191.93	173.91	173.91	▲9.4%
世界計	期首在庫	305.37	315.45	291.66	293.37	▲7.0%
	生産量	1230.70	1230.61	1286.23	1282.96	4.3%
	輸入量	197.62	184.99	191.12	190.37	2.9%
	消費量	1220.62	1252.69	1296.54	1297.18	3.6%
	輸出量	192.65	187.14	203.47	205.10	9.6%
	期末在庫	315.45	293.37	281.34	279.15	▲4.8%

資料: USDA/WAOB 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注: 各国の穀物年度 米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

大豆生産量の上方修正から期末在庫も上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年12月9日、2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更

新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2254万トン（前年度比1.1%減）と前月から79万トン上方修正された。このうち、

表 主要国の大豆需給見通し（2025年12月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	7.19	9.32	8.61	8.61	▲7.6%
	生産量	113.27	119.05	115.75	115.75	▲2.8%
	輸入量	0.57	0.79	0.54	0.54	▲31.6%
	消費量	62.20	66.55	69.54	69.54	4.5%
	輸出量	46.27	51.23	44.50	44.50	▲13.1%
	期末在庫	9.32	8.61	7.89	7.89	▲8.4%
ブラジル	期首在庫	36.80	29.72	36.81	36.81	23.9%
	生産量	154.50	171.50	175.00	175.00	2.0%
	輸入量	0.87	0.73	0.35	0.50	▲31.5%
	消費量	54.41	58.00	59.00	59.00	1.7%
	輸出量	104.19	103.14	112.50	112.50	9.1%
	期末在庫	29.72	36.81	36.36	36.51	▲0.8%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	23.10	23.09	▲4.0%
	生産量	48.21	51.11	48.50	48.50	▲5.1%
	輸入量	7.79	6.32	7.70	7.70	21.8%
	消費量	36.58	43.22	41.00	41.00	▲5.1%
	輸出量	5.11	7.87	8.25	8.25	4.8%
	期末在庫	24.05	23.09	22.85	22.84	▲1.1%
中国	期首在庫	32.34	43.31	44.49	44.49	2.7%
	生産量	20.84	20.65	21.00	21.00	1.7%
	輸入量	112.00	108.00	112.00	112.00	3.7%
	消費量	99.00	103.50	108.00	108.00	4.3%
	輸出量	0.07	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	43.31	44.49	44.39	44.39	▲0.2%
世界計	期首在庫	101.78	115.07	123.34	123.24	7.1%
	生産量	396.36	427.15	421.75	422.54	▲1.1%
	輸入量	178.41	179.00	186.41	186.14	4.0%
	消費量	331.17	358.20	364.98	365.24	2.0%
	輸出量	177.84	184.81	187.97	187.70	1.6%
	期末在庫	115.07	123.24	121.99	122.37	▲0.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

最大の生産国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億8614万トン（同4.0%増）と前月から27万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6524万トン（同2.0%増）と前月から26万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と同じく据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8770万トン（同1.6%増）と前月から27万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置かれた。

期末在庫は、生産量の上方修正などを反映して1億2237万トン（同0.7%減）と前月から38万トン上方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。米国政府が11月に発表した中国との貿易・経済協定によれば、中国は25年後半の2カ月間で少なくとも1200万トンの米国産大豆を購入するとされている。これにより、乖離の幅がどの程度縮小に向かうのか注目されている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年12月9日、2025/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

米国内生産量は、167億5200万ブッシェル（4億2552万トン^{（注1）}、前年度比12.5%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は、130億8000万ブッシェル（3億3225万トン、同6.5%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

輸出量は、32億ブッシェル（8128万トン、同12.0%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

期末在庫は、20億2900万ブッシェル（5154万トン、同32.4%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.5%（同2.4ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.00米ドル（630円。1キログラム当たり25円：1米ドル＝157.56円^{（注2）}、同5.7%安）と前年度からやや下落すると見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年12月9日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24 年度	24/25 年度 (推計値)	25/26年度			
				(11月予測)	(12月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.9	98.7	98.7	39.94 (百万ヘクタール)	8.6%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	83.0	90.0	90.0	36.42 (百万ヘクタール)	8.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	186.0	186.0	11.67 (トン/ヘクタール)	3.7%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,532	1,532	38.91 (百万トン)	▲13.1%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,892	16,752	16,752	425.52 (百万トン)	12.5%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	22	25	25	0.64 (百万トン)	13.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,677	18,309	18,309	465.07 (百万トン)	9.8%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,287	13,080	13,080	332.25 (百万トン)	6.5%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,832	5,466	6,100	6,100	154.95 (百万トン)	11.6%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,879	6,821	6,980	6,980	177.30 (百万トン)	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,858	3,075	3,200	81.28 (百万トン)	12.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,145	16,155	16,280	413.53 (百万トン)	7.5%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,532	2,154	2,029	51.54 (百万トン)	32.4%
期末在庫率	(%)	11.8	10.1	13.3	12.5		2.4ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.24	4.00	4.00	24.8 (円/kg)	▲5.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

25/26年度の大豆生産量は過去最大の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2025年12月11日、25/26年度（25年9月～26年8月までに播種されるもの）第3回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

25/26年度トウモロコシ生産量は上方修正ながら、前年度比1.5%減の見込み

2025/26年度のトウモロコシ生産量は、前回（25年11月）より4万2000トン上方修正の1億3887万9000トン（前年度比1.5%減）と見込まれ、これは過去最大となった24/25年度に次ぐ大きさとなる（表1、図1～2）。

表 1 2025/26年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積 (万ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (万トン)			
	2024/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度		
		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率
穀物合計	8,171.9	8,441.8	8,417.7	3.0%	4.3	4.2	4.2	▲2.3%	35,217.5	35,483.3	35,439.2	0.6%
トウモロコシ	2,184.2	2,272.2	2,272.8	4.1%	6.5	6.1	6.1	▲5.4%	14,103.7	13,883.7	13,887.9	▲1.5%
第1期作	377.3	403.9	404.3	7.2%	6.6	6.4	6.4	▲3.1%	2,493.6	2,586.7	2,590.7	3.9%
第2期作	1,743.0	1,809.0	1,809.3	3.8%	6.5	6.1	6.1	▲6.0%	11,322.8	11,045.9	11,046.1	▲2.4%
第3期作	63.9	59.2	59.2	▲7.4%	4.5	4.2	4.2	▲5.6%	287.3	251.1	251.1	▲12.6%
大豆	4,734.6	4,906.3	4,893.6	3.4%	3.6	3.6	3.6	▲0.1%	17,148.1	17,760.2	17,712.4	3.3%

注1：2025年12月11日公表データ。

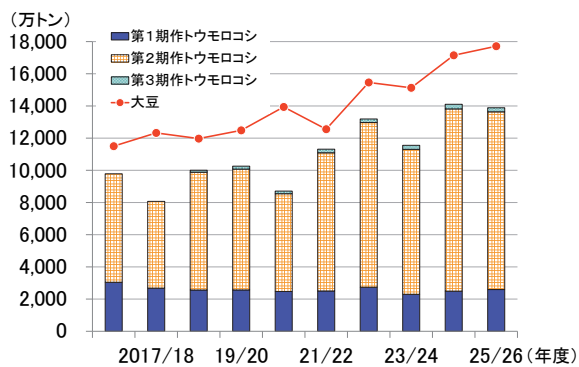
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

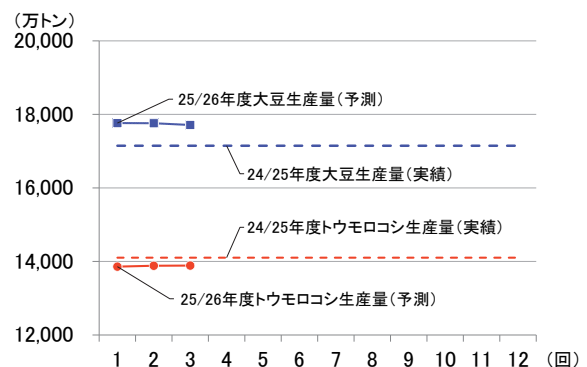


資料：CONAB

注1：2025/26年度は予測値。

注2：25年12月11日公表データ。

図2 2025/26年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は10月公表、以降毎月更新。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、2590万7000トン（同3.9%増）と、前回から4万トン上方修正され、前年度をやや上回ると見込まれている。第1期作の作付けについて、11月前半に発生した暴風雨の影響が一部地域で見られたものの、12月初旬時点で作付面積全体の71.3%に達しており、平年並みの進捗率で推移している。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、1億1046万1000トン（同2.4%減）と、前回から2000トン上方修正され、

前年度をわずかに下回ると見込まれている。第2期作の作付けは12月末から開始される予定である。

25/26年度のトウモロコシ需給を見ると、生産量が上方修正されたことで、消費量も前回から3000トン上方修正され9460万4000トン（同4.5%増）となった（表2）。国内のエタノール需要が増加していることに加え、輸出量は前回から据え置きとなったものの、4650万トン（同16.3%増）と前年度を大幅に上回ることから、期末在庫は前年度をやや下回ると見込まれている。

表2 ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：万トン)

項目	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	25/26年度	増減率 (%)
期首在庫	809.6	720.1	188.2	1,406.2	647.2
生産量	13,189.3	11,553.5	14,103.7	13,887.9	▲1.5
輸入量	131.3	164.5	170.0	170.0	0.0
総供給量	14,130.2	12,438.1	14,461.9	15,464.1	6.9
消費量	7,946.6	8,399.8	9,055.7	9,460.4	4.5
輸出量	5,463.4	3,850.1	4,000.0	4,650.0	16.3
総需要量	13,410.0	12,249.9	13,055.7	14,110.4	8.1
期末在庫	720.1	188.2	1,406.2	1,353.8	▲3.7

資料：CONAB

注：2025年12月11日公表データ。

25/26年度の大豆生産量は下方修正ながら、前年度比3.3%増と過去最大の見込み

2025/26年度の大豆生産量は、前回より47万8000トン下方修正されたものの、1億7712万4000トン（前年度比3.3%増）と前年度をやや上回り、過去最大となる見込みである（表1、図1、2）。25/26年度の作付けについては、トウモロコシと同様に11月前半は一部地域で暴風雨の影響があったものの、同月後半からは天候が回復したことで、12月初旬時点では作付面積全体の90.3%と

平年並みの進捗率に近づいたが、大豆の作付け時期のずれ込みが、トウモロコシの第2期作の作付けに支障を来す恐れがあるとされている。

25/26年度の大豆需給を見ると、生産量が下方修正されたことで、輸出量も前回から10万3000トン下方修正され1億1200万5000トン（同4.7%増）となったものの、前年度をやや上回ると見込まれている（表3）。また、輸出量が増加する見込みにもかかわらず、期末在庫は前年度を大幅に上回ると見込まれている。

表3 ブラジルの大豆需給動向

(単位：万トン)

項目	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	25/26年度	増減率 (%)
期首在庫	954.9	1,103.4	723.1	1,043.2	44.3
生産量	15,915.4	15,128.3	17,148.1	17,712.4	3.3
輸入量	18.1	82.1	90.0	50.0	▲44.4
総供給量	16,888.4	16,313.8	17,961.2	18,805.6	4.7
種子/その他	336.9	342.7	363.9	376.0	3.3
輸出量	10,187.0	9,881.5	10,697.0	11,200.5	4.7
加工量	5,261.2	5,366.5	5,857.1	5,937.5	1.4
総需要量	15,785.0	15,590.7	16,917.9	17,514.0	3.5
期末在庫	1,103.4	723.1	1,043.2	1,291.6	23.8

資料：CONAB

注：2025年12月11日公表データ。

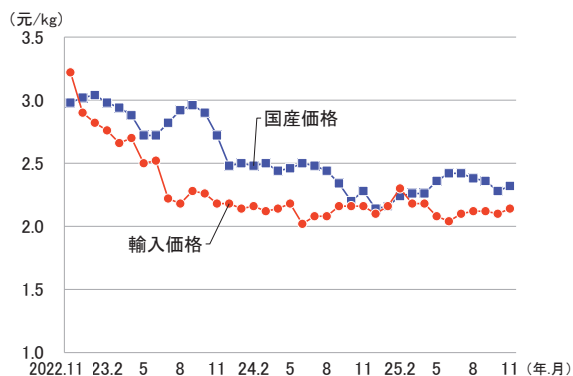
(調査情報部 原田 祥太)

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年11月の国産トウモロコシ価格、需要増でわずかに上昇

中国農業農村部は12月20日、「農産物需給動向分析月報（2025年11月）」を公表した。この中で、25年11月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では、華北地域の黄淮地区（黄河と淮河の流域で、河南省、山東省、江蘇省および安徽省にまたがるエリア）で高品質なトウモロコシの供給がひっ迫し、主産地である東北地域からの補充が必要となっている。需要面では、1）飼料企業の調達意欲が強いこと、2）コーンスターチ製造企業の在庫が前年同期比で低く、補充需要が存在することなどから、短期的にはトウモロコシ価格は強含みに推移すると予想されている。ただし、11月時点の需給はほぼ均衡しており、今後の上昇余地は限定的と見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄浦港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

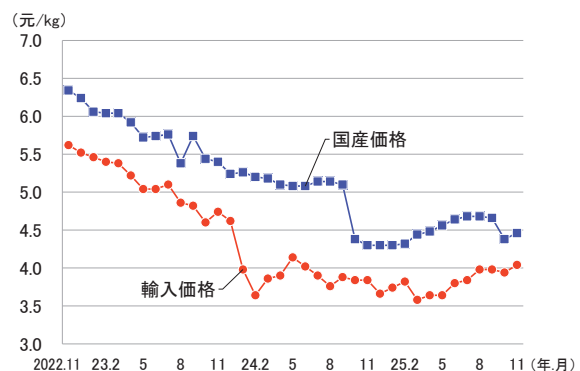
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄浦港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄浦港到着価格は、25年11月が1キログラム当たり2.14元（48円：1元＝22.66円^注、前月比1.9%高）とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.32元（53円、前月比1.8%高）となったが、国産価格の上昇幅が輸入価格の上昇幅を上回ったことから、輸入品と国産品の価格差は拡大した。

25年11月の国産大豆価格、前月からわずかに上昇

2025年11月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、たんばく質含有量が多い高品質な大豆の供給がひっ迫する一方、需要は旺盛なため、国産大豆価格は引き続き堅調を維持し、安定的な推移が見込まれている。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年11月が1キログラム当たり3.92元

(89円、前年同月比2.0%高)と前年同月をわずかに上回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.46元(101円、同3.8%高)と前年同月をやや上回った。同月の輸入大豆価格は同4.04元(92円、前月比2.5%高)となったが、輸入価格の上昇幅が国産価格の上昇幅を上回ったことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準にある。25年(1～10月)の輸入量は9567万トン(前年同期比6.4%増)とかなりの程度増加した。また、輸入額は同6.3%減の427億90万米ドル(6兆7280億円:1米ドル=157.56円^(注))と報告されている。主な輸入先はブラジル(総輸入量の74.0%)、米国(同17.6%)、アルゼンチン(同4.7%)である。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年12月末TTS相場。

25/26年度のトウモロコシ生産は過去最高を更新、大豆はわずかに増産

中国農業農村部は12月9日、最新の「中国農産物需給状況分析」を公表した。

この中で、2025/26年度(10月～翌9月)のトウモロコシ生産量は、作付面積および単収の増加により、前年度に続き過去最高となる3億トン(前年度比1.7%増)と見込まれている(表1)。

輸入量は、600万トン(同3.3倍)と大幅な増加が見込まれている。ただし、トウモロコシ生産量が増加する中で、輸入量は近年減少傾向にあり、23/24年度(2341万トン)の2割強程度の水準となっている。

消費量は、2億9902万トン(同0.4%増)とわずかな増加が見込まれており、引き続き消費の6割以上を占める飼料向けがけん引している。

この結果、トウモロコシの過不足は697万

表1 中国のトウモロコシ需給見通し(2025年12月9日中国農業農村部公表)

区分	一単位一	2023/24 年度	2024/25年度	2025/26年度		
			(推計値)	(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,873	44,873	0.3%
収穫面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,873	44,873	0.3%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,532	6,592	6,685	6,685	1.4%
生産量	(万トン)	28,884	29,492	30,000	30,000	1.7%
輸入量	(万トン)	2,341	183	600	600	227.9%
総供給量(生産量+輸入量)	(万トン)	31,225	29,675	30,600	30,600	3.1%
消費量	(万トン)	29,500	29,786	29,902	29,902	0.4%
食用向け	(万トン)	991	1,000	1,010	1,010	1.0%
飼料向け	(万トン)	19,100	19,350	19,350	19,350	0.0%
工業向け	(万トン)	8,238	8,340	8,450	8,450	1.3%
種子向け	(万トン)	193	128	129	129	0.8%
その他向け	(万トン)	978	968	963	963	▲0.5%
輸出量	(万トン)	1	1	1	1	0.0%
総消費量(消費量+輸出量)	(万トン)	29,501	29,787	29,903	29,903	0.4%
差引数量(総供給量-総消費量)	(万トン)	1,724	▲112	697	697	—

資料: 中国農業農村部

注: 年度は10月～翌9月。

トンの余剰（前年度は112万トンの不足）と見込まれている。

同年度の大豆生産量は、作付面積および単収の増加により、2090万トン（同1.2%増）と見込まれている（表2）。

輸入量は、9580万トン（同12.4%減）とかなり大きな減少が見込まれている。中国

政府による国産の大豆生産振興政策などから、輸入量は減少傾向にある。

消費量は、1億1415万トン（同3.7%減）とやや減少すると見込まれており、引き続き搾油向けが消費の8割以上を占めている。

この結果、大豆の過不足は240万トンの余剰（同78.9%減）と見込まれている。

表2 中国の大豆需給見通し（2025年12月9日中国農業農村部公表）

区分	－単位－	2023/24 年度	2024/25年度	2025/26年度		
			（推計値）	（11月予測）	（12月予測）	前年度比 （増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	10,474	10,325	10,424	10,424	1.0%
収穫面積	（千ヘクタール）	10,474	10,325	10,424	10,424	1.0%
単収	（キログラム/ヘクタール）	1,990	2,000	2,005	2,005	0.2%
生産量	（万トン）	2,084	2,065	2,090	2,090	1.2%
輸入量	（万トン）	10,475	10,937	9,580	9,580	▲12.4%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	12,559	13,002	11,670	11,670	▲10.2%
消費量	（万トン）	11,694	11,856	11,415	11,415	▲3.7%
搾油向け	（万トン）	9,750	9,890	9,420	9,420	▲4.8%
食用向け	（万トン）	1,535	1,560	1,585	1,585	1.6%
種子向け	（万トン）	89	88	89	89	1.1%
その他向け	（万トン）	320	318	321	321	0.9%
輸出量	（万トン）	7	8	15	15	87.5%
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	11,701	11,864	11,430	11,430	▲3.7%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	858	1,138	240	240	▲78.9%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 今野 恵太）